

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第513号 平成30年1月・2月



『雪の多摩川上水』 田村 啓彦

目

	頁
1) 2018年、地域包括ケア基点年にあたって	
玉木一弘 …	2
2) 保健所だよりについて	広報部 … 9
3) 保健所だより	西多摩保健所 … 9
4) 専門医に学ぶ	三浦弘之 … 12
5) 糖尿病医療連携検討会からの 今月のメッセージ	野本正嗣 … 14
6) 西多摩医師会市民健康講座	学術部 … 15
7) 第93回多摩医学会講演会	学術部 … 17
8) 学術講演会抄録	学術部 … 20
9) 平成29年 忘年・クリスマス会	総務部 … 20
10) 片倉和彦先生表彰	広報部 … 21

次

	頁
11) 第16回西多摩医師会臨床報告会の ご案内及び演題募集について	学術部 … 22
12) お詫びと訂正	事務局 … 22
13) 西東京医師協同組合 第35回囲碁大会ご案内	事務局 … 23
14) 広報だより	進藤幸雄 … 24
15) 連載企画	栗原教光 … 25
16) 学術講演会予定	学術部 … 26
17) 理事会報告	広報部 … 27
18) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 32
19) お知らせ	事務局 … 36
20) 表紙のことば	田村啓彦 … 36
21) あとがき	神尾重則 … 36



2018年、地域包括ケア基点年にあたって

一般社団法人 西多摩医師会
会長 玉木 一 弘

会員の皆様、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また平素よりの地域医療や本会活動へのご尽力に、心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。さて、昨年6月の総会の所信でも申し述べました通り、「地域医療・介護総合確保推進法」制定、医療法・国民健康保険法・介護保険法改正等が相次いで施行され、地域包括ケア構築に関するその付帯事業が、2018年（H30年）を基点年に本格的に実施されます。その年頭にあたり、国施策の課題、医師会事業の方向性、活動の進捗等を申し述べ、皆様とともに覚悟をもって、本年も西多摩の地域医療体制作りと会員業の共生に邁進し、地域住民の方々の生活の質の向上に寄与したく存じます。

H30年を基点に本格化する施策

- 地域医療・介護総合確保推進法制定**
 - 地域医療構想策定
 - 区市町村在宅療養推進事業
 - 在宅医療介護連携推進事業
- 医療法改正**
 - 医療事故調査報告制度
 - 地域医療連携推進法人制度
- 国民健康保険法改正**
 - 国保の都道府県への広域化
 - 医療財政移管
 - 地域ごとのデータヘルス
 - 医療費適正化計画等の実施
- 介護保険法改正**
 - 総合事業
 - 新介護予防事業

医療・介護報酬同時改定

基金：医療介護総合確保推進の新たな財政支援制度の活用

市町村が実施主体となり計画し基金を活用

医療分基金（約90億） 区市町村在宅療養推進事業

- ①医療コーディネート体制の整備
介護事業者及び都民からの様々な在宅医療に関する専門相談に対応できる体制を整備し、医療面における相談機能の強化を図る。
- ②退院患者への医療・介護連携支援体制の整備
地域の实情に応じて、地域の医療・介護資源が連携して早期から退院支援を行う仕組みやルールを検討・策定し、退院患者の在宅療養生活への円滑な移行を実現できる体制を構築する。
- ③在宅医と入院医療機関の連携促進
地域の入院医療機関が登録医療機関として、日頃から在宅医と情報共有を行い連携して、患者・家族が安心して在宅療養生活を継続することができる体制を構築する。

介護分基金（約70億）在宅医療介護連携推進事業（介護保険地域支援事業）

- (ア)地域の医療・介護サービス資源の把握
リスト化・マップ化・相談可能日時
- (イ)在宅医療・介護連携の課題抽出と対応策の検討
- (ロ)切れ目のない在宅医療と介護サービスの提供体制の構築推進
- (ハ)医療・介護関係者の情報共有の支援
- (ニ)在宅医療・介護連携に関する相談支援
在宅医療・介護連携支援センター 関係者連携支援コーディネーター 連携相談室
- (ホ)医療・介護関係者の研修
- (ヘ)地域住民への普及啓発
- (ケ)在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携
二次医療圏内や隣接市区町村等の広域連携課題の検討

東京都補助事業で西多摩医師会で稼働中！ ICT多職種ネットワーク

西多摩医師会 西多摩三幹会で毎年実施中！ 多職種研修会
・在宅医療
・摂食地下
・認知症
・その他
市民公開講座

各自自治体で人件費等予算化 医師会や地医等に委託

地域包括ケアに8市町村の協働が不可欠 保健所・医師会で取り組み中 首長・議会へは説明済み 広域行政圏としての取り組みを推進

1) 医療介護報酬同時改定

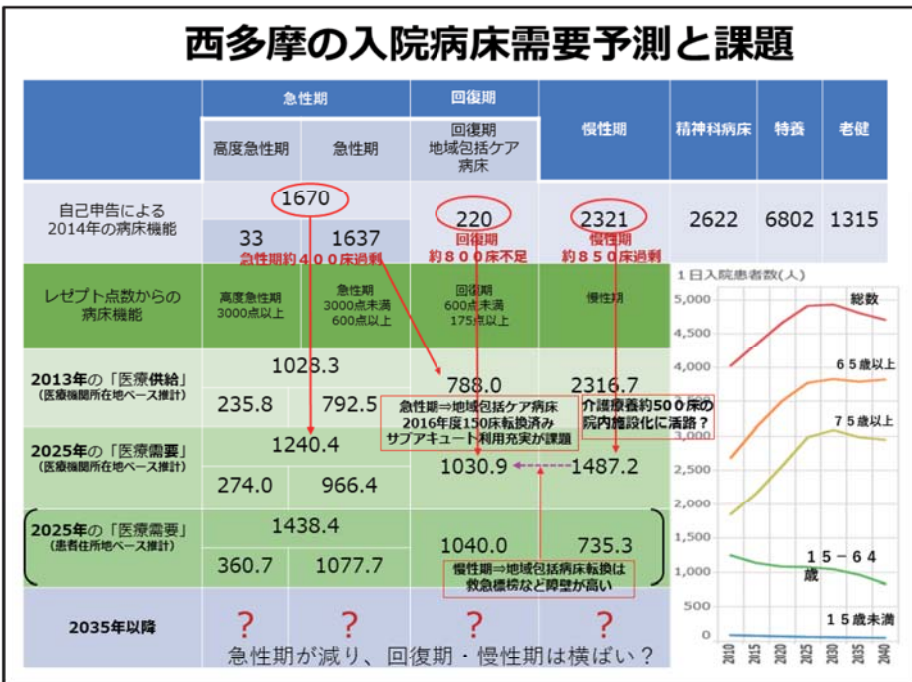
消費税増税が先送りされ、医療介護財源の総枠-1.74%、薬価引き下げ分を原資に医療費本体+0.55%、介護報酬+0.47%増を行うと、12月末現在報道されています。改定項目については、下図の様な論点が示されています。

平成30年度の診療報酬・介護報酬改定に向けた主な検討項目	
診療報酬・薬価制度等	介護報酬
1. 医療機能の分化・連携の強化、地域包括ケアシステムの構築の推進	
①入院医療 ・地域医療構想の推進に向けて、急性期・回復期・慢性期といった医療機能や患者の状態(重症度)に応じた評価を推進 ②外来医療、在宅医療 ・生活習慣病患者への適切な治療も含め、かかりつけ医機能の推進 (アウトカムに着目した効果的な治療の評価 多職種連携による効果的な医療提供の推進、 薬の適切な処方(リフィル処方による残薬解消、降圧剤等の適切な処方) 大病院受診時定額負担の対象病院の見直し 【医療と介護の連携推進】 ・特養における医療ニーズや看取りにより一層対応できる仕組み ・医療機関とケアマネジャーの連携 ・維持型リハビリの介護保険への移行	①介護医療院の報酬・基準の設定や各種の転換支援策 ②自立支援や在宅生活の支援に関する取組の推進 ・自立支援に向けた介護事業者へのインセンティブ ・通所リハビリテーションと通所介護の役割分担・機能強化 ・小規模多機能型居宅介護等の人員基準・利用定員
2. 効率的・効果的な医療提供の推進 ・遠隔医療の診療報酬の評価 ・ICTを活用した負担軽減につながる取組の推進 ・がんゲノム検査を活用した効果的な治療の推進	2.介護人材確保と質が高く効率的なサービス提供体制の構築 ・介護職員の月額1万円相当の処遇改善(※平成29年度改定) ・生活支援を中心に訪問介護を行う場合の人員基準の緩和・報酬の設定 ・介護ロボット・ICTを活用する事業所の報酬・人員基準
3. 薬価制度の抜本改革 「薬価制度の抜本改革に向けた基本方針」に沿って、 ・市場規模拡大への柔軟な対応(年4回の再算定) ・中間年の薬価調査・薬価改定 ・長期収監品の薬価引下げ、新薬創出加算の抜本的見直し、費用対効果の高い薬の薬価引上げを含め、真に有効な医薬品のイノベーション推進	3.介護サービスの適正化・重点化 ・通所介護などその他の給付の適正化 ・福祉用具の全国平均貸与価格の公表と貸与価格の上限の設定
4. 調剤報酬の抜本的見直し ・かかりつけ薬剤師・薬局の活躍の推進 ・薬局の機能に応じたメリハリの効いた評価 (いわゆる門前・門内薬局の評価の適正化)	

第四回 西多摩医療・介護・福祉施策勉強会 武見敬三参議院議員資料 2017/10/6

2) 地域医療構想調整会議進捗と対応→在宅療養基盤と戦略的相互連携の強化

東京都地域医療構想に基づく「西多摩地域医療構想調整会議」は、2016年12月、2017年6月、11月と3回開催されました。調整会議では、第一に2025年以降の西多摩の医療需要予測「総需要は高齢者やや減少・65歳以下減少、病床機能は回復期の増、急性期・慢性期の減、外来需要も減少が見込まれる」を確認し、事業者が自らの病床機能の将



来像を見出すことを支援しています。しかし当然、会員医療機関の事情は千差万別であり、会員個々が将来に向けた適正な経営構想を確立する道筋は多難です。

第二に、現在療養病床が担う「医療区分1」の7割に当たる、医療依存度の低い入院者の方々を、在宅療養に移行する目標を設定し、在宅医療の基盤強化を論じる「在宅ワーキング」と、市区町村の介護保険計画のサービス量を見積もる「協議の場」の二つの関連部会で、地域の課題抽出を行っています。2025年度における西多摩での訪問診療必要量の機械的試算は1,787人で、2013年度実績1,258人の約42%増と見込まれています。この急峻な坂道をどのように越えて行くかが今後の重要な課題となります。

誰が在宅医療需要の増分を担うのかは、人生の最終段階の自己決定を支える為に、20年来、介護保険黎明期から、2025年に向けて迫られて来た、期限付き論題です。在宅ワーキングでの議論を踏まえれば、「在宅医療すなわち人生の最終段階の困難な医療」という固定的イメージを払拭することに活路があると考えたいと思います。統計上も高齢者の8割は、合併症を抱えながらも、徐々なる身体と生活機能の低下の道筋を辿られます。まずは療養者の、自らの療養の道筋に関する意思を引き出し、専門的対応を要する困難な事例は在宅専従医にお願いするとしても、自らできる事例はかかりつけの病院・診療所がその能力に応じて担い、時には地域包括ケア病床などへの入院による一時的な応急的医療、介護施設入所によるリハビリリコンディショニングやレスパイト等のバックアップ機能を利用しつつ、その方の療養の道筋の維持に地域として皆で関わり、時には看取りにも関わることで、療養の主たる基盤を在宅に置くよう、在宅療養基盤の裾野を広げることに活路があると考えたいと思います。

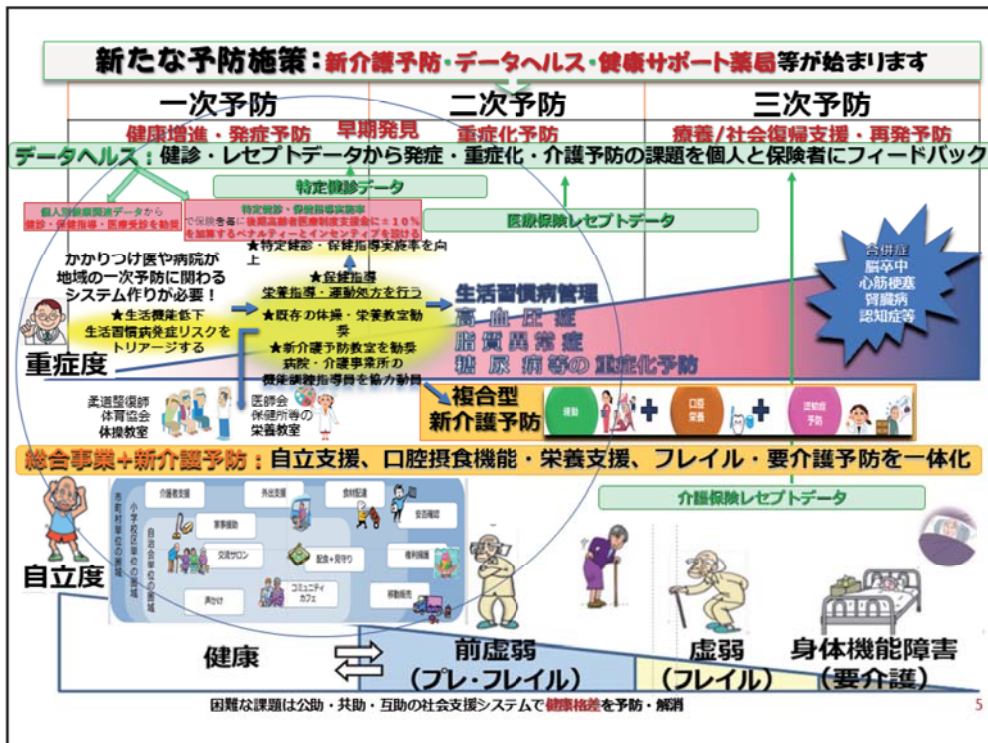
そのための共通の着目点は、認知症・脳卒中・糖尿病・運動器・がん・摂食・栄養・災害医療等への対応力の向上にあり、必須ツールは電子カルテやICT多職種連携であると考えます。

外来医療需要減少の波は、かかりつけ医群の会員にも押し寄せます。政策と同期して高齢者の医療需要に応える医療介護連携モデルを機能させること、また母子・青年期の方々への健診・日常診療・専門医療の提供も含め、この坂道を、西多摩医療圏の将来像を見据え団結する機会と捉え、病院・施設・在宅・外来医療の相互連携から、西多摩地域医療の全体像を戦略的に強固にし、西多摩を将来像ある地に行きたいと願います。

3) データヘルス・医療費適正化計画への対応

→かかりつけ医療機関の特定健診・保健指導、生活習慣病と要介護予防への関わり強化

特定健診とレセプトのビッグデータ化、都道府県単位への国保広域化を契機にしたデータヘルス・医療費適正化計画が開始されます。地域ごとに特定健診・保健指導が適正に行われ、発症や重症化予防（一次・二次予防）に結び付き、医療費抑制が達成されているかが評価されます。西多摩の特定健診受診率・保健指導実施率は都平均の7割程度と下回っています。健診の通年化、保健指導の医療機関での実施等、住民アクセスの改善に向けた取り組み、生活習慣病や要介護予防における運動・栄養指導への参画、訓練職等の人的協力等、本会として各市町村への協働の意志は、様々な機会を通じて表明しています。具体化される際は、各市町村医師会の皆様のご協力を仰ぐ所存です。




- 4) 西多摩八市町村との連携と協働による現場作り→人材確保・育成循環そして ICT 連携の確立
本年度より各市区町村が実施主体となる地域包括ケア（医療介護総合確保推進法）構築に関する連携と現場作りを、前述の着目点から推進するため行っている「五つのバリアフリー活動」は、これまでご案内の通りです。

医療と介護の総合提供のための連携拡大と現場作り 西多摩医師会：五つのバリアフリー活動の強化

「ICTによる連携・情報のバリアフリー活動」
多職種ネットワーク構築活動
地域包括ケアのための多職種名簿作成
多職種間情報共有・研修アクセス支援
地域住民の医療・介護資源へのアクセス支援
啓発情報発信
会外・会内情報へのアクセスと意思決定の迅速化

「運動器疾患のバリアフリー活動」
かかりつけ医・整形外科医・多職種連携による
ロコモ・サルコ・フレイル・疼痛支援から
動器機能低下や疼痛に囚われて生活不活発に陥る
高齢者の、心のケアを含む早期対応強化




「こころのバリアフリー活動」
かかりつけ医・精神・神経内科医・多職種連携による
認知症・うつ・精神・神経疾患等の行動・心理・運動器
症状・生活機能低下リスクへの早期対応力の向上

地域認知症疾患医療センター・精神科医療地域連携事業への参画
身体合併症対応体制の充実、
精神疾患長期入院者の退院促進
医療中断を防ぐための仕組みづくり
受診しやすい認知症・精神科医療体制作り
非ベンゾジアゼピン化の促進をめざす連携

西多摩三師会

「食と栄養のバリアフリー活動」
接触下機能支援の包括的多職種連携と事例研究
摂食嚥下機能評価実施医療機関へのアクセス支援
口腔ケア・義歯器具調整・栄養管理・食形態統一
栄養補助医薬品調整・リハビリ・介助法等

「孤立と災害からのバリアフリー活動」
医師会と医療機関による
地域災害医療計画と同期したBCP作りと
災害時要配慮者への支援力の強化活動



さらに昨年来、以下について活動強化を行っています。

- ①西多摩広域行政圏協議会と連携した医療・介護関係者研修の実施
平成 30 年度から進められる在宅医療・介護連携推進事業（力）（ク）に該当する活動研修実施に、西多摩広域行政圏協議会の協力依頼に基づき、参画することとし、今後とも協働を深めて行く所存です。

主催：西多摩広域行政圏協議会（案）

日時：平成 30 年 7 月 18 日（水）19 時～21 時 会場：あきる野ルピア

対象：西多摩 8 市町村の医療・介護関係者（100 名程度）

内容：(1) 講演：西多摩の地域特性と地域包括ケアシステムの課題

“在宅医療、介護従事者の人材育成の視点から「地域ケア」を考える”

西多摩医師会会長 福生クリニック院長 玉木一弘

(2) 事例研究（多職種グループワーク）

“西多摩の医療介護の課題：糖尿病を基礎とした脳卒中・認知症等の事例を踏まえて”

グループワークナビゲータ

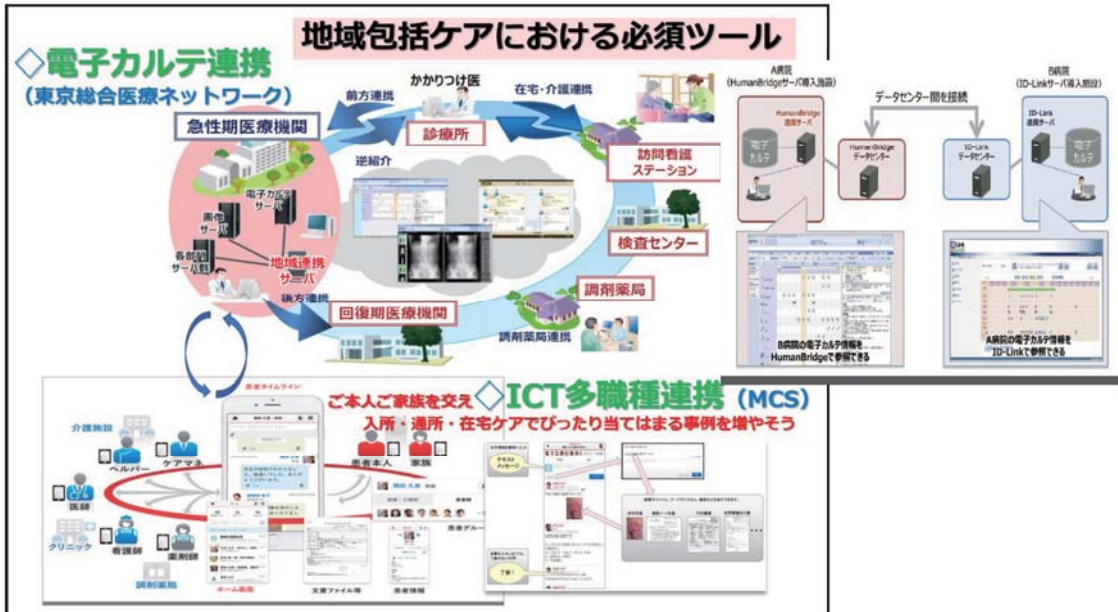
東京都西多摩地域脳卒中医療連携検討会 座長 進藤 晃（日の出町 大久野病院院長）

東京都西多摩地域糖尿病医療連携検討会 座長 野本正嗣（青梅市 野本医院院長）

- ②西多摩医療圏における電子カルテ連携の確立と ICT 多職種連携の普及

地域包括ケアの必須ツールである電子カルテ連携の開始と ICT 多職種連携の普及にさらに力を注いで参る所存です。平成 28 年 5 月よりの西多摩地域 ICT 多職種ネットワークの始動に続き、昨年 6 月から「西多摩地域医療連携 ICT システム整備委員会」を立ち上げ、まず病院間の電子カルテ連携の取り組みを開始しています。電子カルテ連携構築には、地域ごとに連携サーバーを立ち上げる必要性等から、整備費用が障壁となってきました。

本年 4 月から東京都・東京都医師会・病院協会の協働事業として始動する、全般的「東京総合医療ネットワーク」によって、多様なベンダーの電子カルテもデータセンターを介した連携が可能となり、西多摩のみならず他地域との連携にも間口を広げた体制実現の道筋が開かれようとしています。本会でもこのネットワークの参加により、電子カルテ連携の確立を目指して行く所存です。

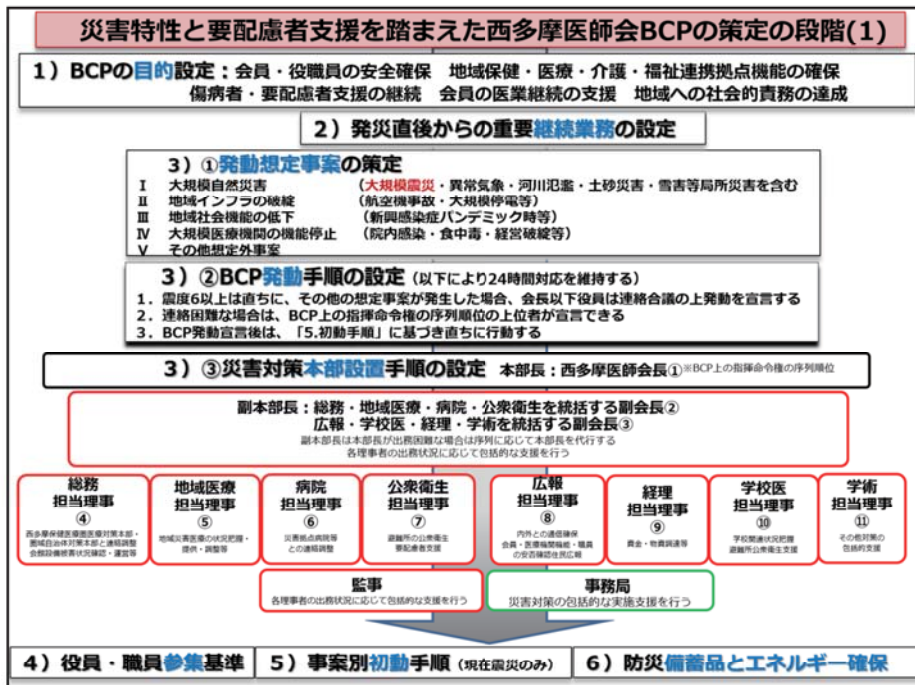


③災害時重傷者搬送、要配慮者支援体制の強化

2016年には西多摩地域災害医療計画図上訓練に同期し、「西多摩医師会BCP計画」を策定しました。2017年度は災害時要配慮者支援の確立を地域包括ケアの達成課題とし、BCPの強化を検討し多摩医学会で発表しました。

ご承知のように西多摩の災害特性は広域の山間や河川沿に、災害時要配慮者を擁する集落、慢性期・精神科病床・介護施設約15,000床が点在し、同時多発的孤立リスクが想定されることです。

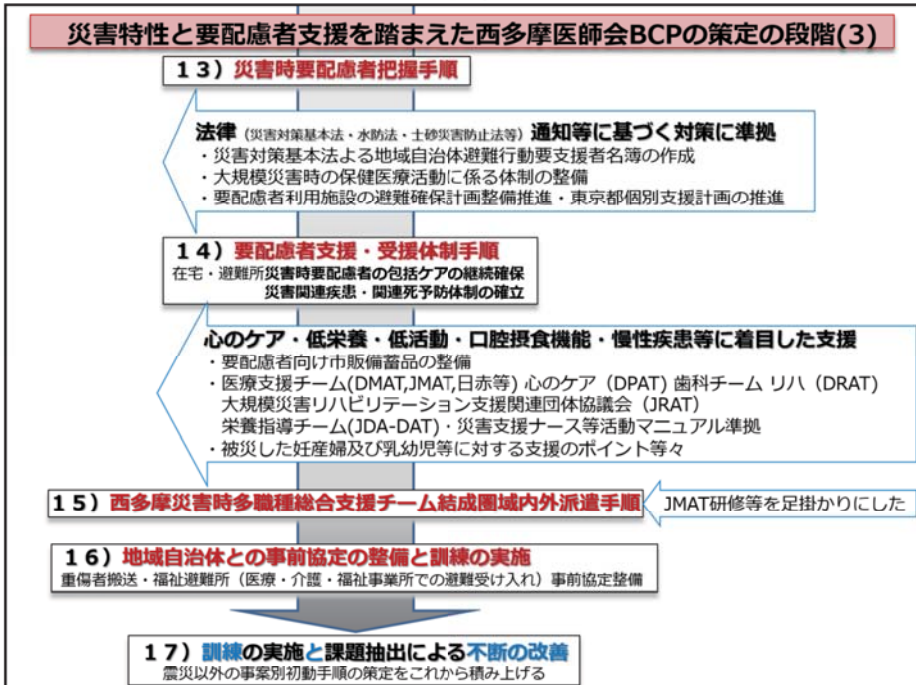
立川断層型地震による甚大な被害を想定すると、米軍基地との相互支援を含む、八自治体や保健所との協働による医療・搬送・健康管理・生活支援の迅速な初動と、JMAT等多職種受援への医師会の発信力が問われると踏まえ、BCPでは目的、重要継続業務・発動事案・本部設置手順、参集・初動手順、備蓄品とエネルギー確保、被害状況確認・通信確保、MCSによる安否・状況確認、情報収集と会員への伝達手順、圏域災害医療体制に準拠した医療提供手順、地域住民への情報提供手順などを定めました。



災害時は八自治体ごとに対策本部や避難所が立ち上がり、災害拠点病院となる三公立病院との連絡や、重傷者搬送体制に絶対的な課題があります。また広域の避難所・救護所・介護施設等で、災害関連死や重症化予防に当たる自前の災害時多職種総合支援チームの存在が必要です。そこで地域の要配慮者把握・支援・受援体制や、自治体との事前協定の整備、市町村との訓練の実施等へ踏む込んだことが昨年の進捗です。



要配慮者把握や対応は災害三法に基づく自治体の避難行動要支援者把握、施設の避難計画整備、都の個別支援計画に準拠し、支援・受援手順は心のケア・低栄養・低活動・口腔摂食機能・慢性疾患等に着目し、自治体の要配慮者向け備蓄を促し、活動手順は各多職種団体支援チームのマニュアルに準拠することとしました。西多摩災害時多職種総合支援チーム結成のため東京都医師会 JMAT 研修等へ参加を推奨していますので、是非ご参加ください。



地域自治体との事前協定整備と訓練実施事例を挙げます。瑞穂町（人口 33000、高齢化率 26.2%）では、2013 年 1 月に、地元 4 特養・3 老健・1 療養型医療施設計 8 施設は福祉避難所開設による要配慮高齢者・駆け込み避難者の受け入れと移送協力を担い、町は安否確認・状況把握・受入要請・連携・インフラ支援、社協はボランティアセンター運営と人的支援で構成する「災害時における要援護高齢者の避難施設に関する協定」を締結しました。

2016 年 10 月 31 日、3 年 10 か月の具体的・継続的な検討を経て、各施設の多職種参加型訓練として、災害対策本部立ち上げ・被害状況とりまとめ・要配慮者安否確認・施設への受け入れ移送要請・ボランティア派遣要請・必要物資供給・災害拠点病院への搬送等を想定した 4 時間の図上訓練を行いました。



訓練から学んだこととして、◆想定外の決断と柔軟な対応力育成◆変化する状況下での情報整理・優先順位付け・選択力の一からの体験◆基本に学び、各施設の役割と対応力の見える化、反復訓練での課題抽出、全職員への展開・不断の改善等が挙げられ、次回の課題は◆駆け込み・要配慮者二次避難対応力整備◆移送力整備◆受援手順整備◆自治体多部署・高齢者関連団体・消防団等への参加拡大が挙げられました。

2017 年 11 月 10 日の第 2 回訓練では、◆医療職配置の少ない施設の協力医療機関との連携◆医療を必ずする駆け込み避難者への施設毎の対応力の再検討◆消防移送力には頼れず自力移送力の連携協力が必要とされ、次回課題は、ICT 多職種ネットワークを活用した災害時情報の連携と効率化、自治体、協力医療機関、居宅事業者等との総合的な連携体制構築、保健所等との災害時要配慮者把握・受援手順の整備となりました。

これらは一事例ですが、災害時要配慮者を擁する西多摩各地域でも、同様の取り組みがなされているものと存じます。会員の皆様の格段のご理解とご支援をお願い申し上げます。

5) 医師会会務・財務改革の方向性

医師会財務は、ここ 2 年、100 周年事業、新会館の減価償却開始などに伴うマイナス会計をご報告してきましたが、財務改善方策の検討、人件費支出や経費節減策の実施、新会館・設備の減価償却の徐々なる減少から、概ねマイナス会計を脱し次年度以降健全化する見込みを、前回の総会でご報告できました。

元来、本会は他の医師会のような収益事業、事務手続き代行手数料徴収、特定健診等の事務手数料徴収等が無く、会費や行政補助金への依存性が高い財務構造にあります。会費だけに頼らぬ一層の財務の健全化、市町村と共同可能な収益事業の創出、公益目的事業の開発等に取り組みたいと存じます。

その他、医師会業務の ICT 化による情報伝達・共有・意思決定・広報の迅速化に力を入れて行く所存です。

まだまだ諸事ございますが、本年も更なるご理解、ご指導並びにご協力をお願いして、年頭の所信とご挨拶と致します。

保健所だより

『保健所だより』について

これまで、『感染症だより』として西多摩保健所の先生方に管内の感染症について、速報等含めてご執筆いただいております。昨今のインターネットの普及などで、医師会会報誌に即時性は求められなくなってまいりました。会員のみなさまにとってより有益な情報を西多摩保健所から発信していただきたいと考え、感染症のジャンルにとらわれない形でご執筆をお願いいたしました。

今号より『感染症だより』から表記の『保健所だより』と改名をさせていただくこととなりました。今後ともよろしく申し上げます。
 広報部 古川朋靖

新年あけましておめでとうございます。本号より、「感染症だより」をリニューアルし「保健所だより」として、保健所に関連する事業や取り組みをご紹介しますことになりました。皆様の生活に密着した話題から保健所をより身近に感じていただければ幸いです。

〈全数報告〉

2017年第42週～第49週(10/16-12/10)の間に診断された感染症について、青梅・福生・羽村・あきる野・瑞穂・日の出・檜原・奥多摩(以下「管内」)の医療機関より以下の報告がありました。

(二類感染症) 結核 18名(肺結核 10名、結核性胸膜炎 3名/内1名は肺結核との併発、無症状病原体保有者 6名。年齢は、10代 1名、20代 3名、40代 3名、50代 3名、60代 1名、70代 4名、80代 2名、90代 1名。男性 10名、女性 8名)

(三類感染症) 腸管出血性大腸菌感染症 1名(90代 女性)

(四類感染症) つつが虫病 4名(60代 2名、70代 2名、男性 4名)、レジオネラ症 2名(50代 1名、80代 1名、男性 2名)

(五類感染症) ウイルス性肝炎 1名(30代 男性)、クロイツフェルト・ヤコブ病 1名(60代 男性)、梅毒 2名(10代 1名、60代 1名、男性 1名、女性 1名)、破傷風 1名(60代 女性)

〈管内定点からの報告〉

(人)

	第42週 10/16～	第43週 10/23～	第44週 10/30～	第45週 11/6～	第46週 11/13～	第47週 11/20～	第48週 11/27～	第49週 12/4～
インフルエンザ		2	9	10	7	28	65	84
RSウイルス感染症	6	1	2	3	2	5	2	2
咽頭結膜熱	2		2	1		1		2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	13	8	11	12	11	9	17
感染性胃腸炎	14	21	24	33	43	52	75	56
水痘	1	6	1	8	3	8	4	1
手足口病	24	32	9	9	7	11	4	2
伝染性紅斑			1				1	1
突発性発しん		1	4	3	1	4	1	1
百日咳								
ヘルパンギーナ	2	1	3	1			1	1
流行性耳下腺炎						1	1	
不明発疹症								
川崎病								
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎			1					
合 計	54	77	64	79	75	121	163	167

〈定点疾患のコメント〉

- ・インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しており、今後の状況に注意する必要があります。
- ・感染性胃腸炎の報告数は全体的に増加していますが、一部の地域で非常に多くなっており、流行が広がる可能性があります。
- ・咽頭結膜熱は例年に比べると高いレベルの報告数が続いています。

〈情報提供〉

- ・平成30年1月1日より、感染症法施行規則の一部改正に伴い、下記の2疾患について基準の一部が変更されます。

百日咳が全数届出となり、「臨床的特徴」、「届出基準」及び「届出のために必要な臨床症状」の表現が適正化されます。

風しんの届出期限が診断から「7日以内」から「直ちに」に変更され、「臨床的特徴」及び「届出のために必要な要件」の表現が適正化されます。

- ・法定感染症の届出基準および様式は下記の厚生労働省ホームページをご参照ください。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekakukansenshou/kekaku-kansenshou11/01.html#list01

『戌年によせて』

犬も歩けば・・・という諺にならって、ペットショップを覗いてみました。仔犬や子猫たちの中で1匹だけ大柄な成犬が目を引きます。店員によると保護犬の新しい飼い主を探すため、店も協力して展示しているとのこと。どうして保護犬がペットショップにやって来たのか、これからどんな人生（犬生？）を送るのか。動物に関連する法律や計画を通して、動物を飼育する際の課題と対策を考えていきます。

動物愛護法：動物の虐待防止、適正な取扱などを目的として昭和48年に『動物の保護及び管理に関する法律』が制定されました。その後、平成11年に『動物の愛護及び管理に関する法律』と改正されました。平成25年の改正では罰則が強化され、愛護動物をみだりに殺し又は傷つけた場合は2年以下の懲役又は200万円以下の罰金、また、愛護動物に対して虐待・遺棄を行った者は100万円以下の罰金に処されます。なお、ここでいう愛護動物とは「牛、馬、豚、めん羊、山羊、犬、猫、いえうさぎ、鶏、いえばと及びあひる」の11種類と「その他、人が占有している動物で哺乳類、鳥類又は爬虫類に属するもの」で魚類や無脊椎動物などは含まれません。また、平成25年に改正された際のポイントが3つあります。1つ目は「終生飼養」です。ペットの飼い主だけでなく動物取扱業者の責務にも販売が困難になった動物の終生飼養の確保が義務化されました。2つ目は「動物取扱業の規制強化」です。ペット販売時の対面販売を義務付け、生後56日未満（現在は附則により49日）の幼齢犬猫の取扱いを禁止し、非営利（保護団体など）の動物取扱についても飼養施設を持ち一定頭数を飼養する場合は届け出対象となりました。3つ目は「災害対策」です。東日本大震災の経験を生かし、災害時における動物の適正な飼養及び保管に関する施策を、都道府県が策定する動物愛護管理推進計画に追加しました。

東京都動物愛護管理推進計画（ハルスプラン）：平成26年に改定され、適正飼育の推進、事業者等への監視指導の強化、致死処分数減少を目指した取組の推進、災害対策等を図っています。一方で、飼育モラルの欠如による近隣への迷惑行為が社会問題化し、例えば過剰に繁殖したペットによって日常生活が破たんする「多頭飼育崩壊：Animal Hoarding」が全国でも相次いでい

ます。昨年11月に放映されたNHKの番組では、西多摩保健所管内の60代女性が30匹の猫を飼育しており、心配した知人からの連絡でボランティア団体が不妊・去勢手術を行ったことが取り上げられていました。このような事態を引き起こすリスクとして高齢者や一人暮らしが考えられます。動物を取り上げるだけでは解決には至りません。不適正な多頭飼育は、認知症・依存症・強迫障害のような心理的障害の徴候として現れることがあり、取り上げたとしても再発する傾向にあります。解決には家族、知人をはじめ、福祉、精神保健、法律家、住民等、多岐に渡る地域からの支援による中長期的な見守りが必要です。

狂犬病予防法：昭和25年に施行され、犬の登録、予防注射、野犬等の抑留が徹底されるようになり、わずか7年で狂犬病を撲滅するに至りました。昭和32年以降、国内での狂犬病発生はありませんが、平成18年にフィリピンで犬にかまれ、帰国後に狂犬病を発症し死亡した輸入感染例の報告が2例ありました。今なお中国、インドをはじめとするアジア地域だけでも死亡者は年間約31000人（2004年WHO）報告されています。また、狂犬病の清浄地域とされていた台湾においても、平成25年に野生のイタチアナグマが狂犬病に感染していることが確認され、現在も清浄化されていません。そこで、日本では狂犬病の発生・蔓延を防止するため、狂犬病予防法に基づき、犬の登録及び予防接種等の国内対策の他、空港や港などにおける水際対策として犬猫等の輸出入検疫を実施しています。また、外国船により海外から不法に持ち込まれる犬等の対策にも取り組んでいます。万が一、海外で野犬に咬まれた場合には曝露後ワクチン（90日間で計6回）の接種が重要です。なお、飼い犬の登録や予防接種は市町村が担当しているので各自治体の健康保健センター等にお問い合わせください。

感染症法とワンヘルス：平成10年に『感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）』が制定されました。この法律では、法定感染症の類型を再整理し、人権尊重の観点からの手続き保障、感染症発生動向調査体制の整備、感染症指定医療機関の指定などとともに、サル等の動物由来感染症対策が創設されました。感染症法に定められている狂犬病やオウム病だけでなく日本のペットなど家庭動物に関わりのある人畜共通感染症は約60種程度で、このうち国内で発生のみみられる エキノコックス症、狂犬病、Q熱、レプトスピラ症、オウム病、高病原性鳥インフルエンザは人に対して危険性が高い感染症です。例えば、ふれあい動物施設に来場した人で集団感染した腸管出血性大腸菌感染症、ペットのミドリガメから子供が感染し重症になったサルモネラ症の事例も報告されています。なお、東京都では平成15年に組織改正を行い、従来、多摩地区の東京都保健所が行っていた動物愛護管理事務及び動物の飼養又は収容の許可事務が動物愛護相談センター多摩支所に一元化されました。動物由来感染症などが発生した際には、保健所と動物愛護相談センターが連携して対応しています。全ての感染症の約半数を動物由来感染症が占めており、人・動物・環境の衛生の関係者が連携して対策に取組むべきであるといった『ワンヘルス』の考え方が非常に重要になっています。

最後に犬の特性を生かした仕事を紹介します。嗅覚（警察犬、麻薬探知犬、がん探知犬）や頭脳（盲導犬、聴導犬、介助犬）そして習性（猟犬、セラビードッグ）などで、犬は人間を助けてくれます。また、犬を飼うことで心疾患の罹患リスクを減らし寿命を長くするとの報告もあります。最近、人工知能（AI）を使った犬型ロボットがリニューアルされたので、近い将来、「ロボット犬と散歩する」といったリハビリメニューが出てくるかもしれません。なお、ロボット犬もインターネットを介してウイルス感染する可能性があるため、動物由来感染症？に注意が必要でしょう。

専門医に学ぶ 第128回

公立阿伎留医療センター 呼吸器外科 三浦 弘之

症例：76歳女性

皮膚筋炎で治療中、全身検索の胸部CTで異常影を発見されました。胸部単純X線と胸部CT画像を示します。(図1, 2)

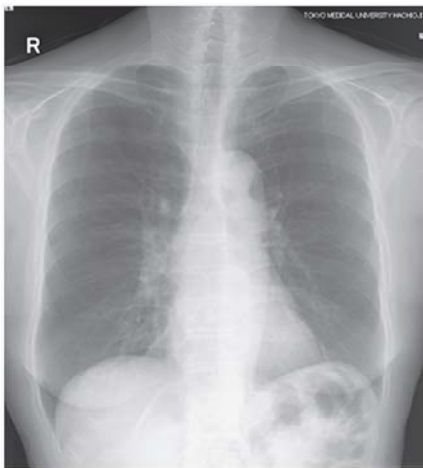


図1 胸部単純X線

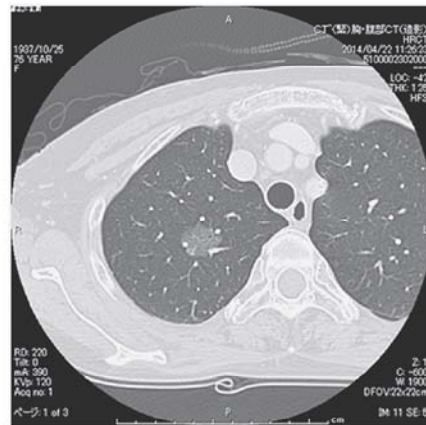


図2 胸部CT

問題1：推定病変は？

問題2：今後の方針は？

解説

胸部単純X線写真では、肺野に陰影は認められません。胸部CTでは右S1aに淡い25mm大の陰影を認めます。スリガラス結節影；Ground-Glass Nodule (GGN) と呼ばれますが、特に充実性成分がないものを pure GGN と呼びます。白血球やCRP高値、発熱などの炎症のエピソードがなければ腫瘍の可能性が高くなります。鑑別疾患としては肺癌（上皮内腺癌、微小浸潤性腺癌）、間質性肺炎、悪性リンパ腫があげられます。炎症性のものであれば、円形よりも楔形を呈し、経過を追うことにより縮小することがあります。肺癌であれば中心に線維化が起らない限り縮小しません。

日本CT検診学会が提唱している低線量CTによる肺がん検診の肺結節の判定基準と経過観察の考え方を参考にすると、15mm以上の pure GGN では、3カ月後のCTで変化がないか増大していれば確定診断を勧めています。15mm未満は3カ月後、12カ月後、24カ月後と経過観察を行い、2mm以上の増大あるいは濃度上昇を来した場合、確定診断を勧めています。提示した症例は25mmを呈しており、皮膚筋炎の患者さんでしたので、手術を勧めました。

皮膚筋炎の腫瘍合併率は15～32%とされています。日本では胃癌、欧米では大腸癌が多いと報告されていますが、肺癌もまれではありません。

切除した標本と組織像を示します (図3, 4, 5, 6)。23X21X14mm の腫瘍で、肺胞壁を置換するように進展する上皮内腺癌でした。上皮内腺癌はリンパ節転移を来さず、完全切除されれば5年生存率は100%です。

今回は自己免疫疾患に肺癌が合併しやすいことへの注意点と、CTで pure GGN を呈する陰影の考え方を示しました。治る肺癌を見逃さないことが重要です。

回答1：上皮内腺癌>悪性リンパ腫>>肺炎

回答2：3カ月後に胸部CT再検。変化がないか増大すれば手術。

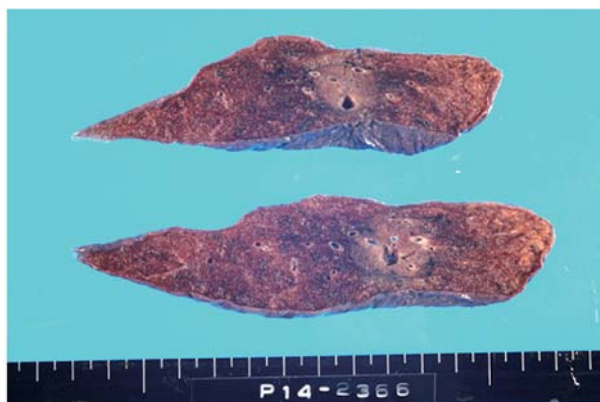


図3 切除肺

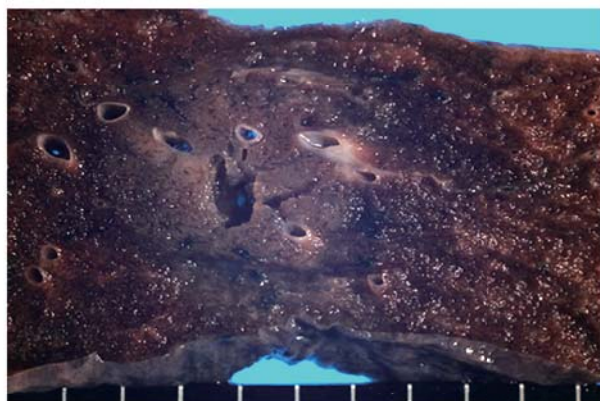


図4 切除肺 (腫瘍拡大)

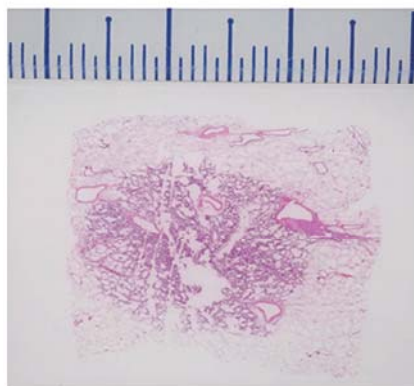


図5 ルーペ像

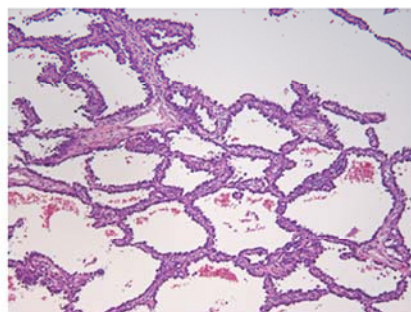


図6 組織像

糖尿病医療連携検討会からの今月のメッセージ

西多摩地域糖尿病医療連携検討会 座長 野本 正嗣

平素より当検討会の活動にご理解・ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。
事業の一つである「生活習慣病栄養指導外来」についてご案内をさせていただきます。

当検討会では、平成 29 年 7 月より、西多摩地域の 17 医療機関（病院 12、診療所 5）
のご協力を頂き、管理栄養士さんによる外来での栄養指導システムを開始いたしました。

しかしながら、10 月 31 日現在の予約患者数は全医療機関で 16 名、栄養指導を開始し
た患者数は 11 名と、まだ大変少ない現状です。

糖尿病患者さんで、〈管理栄養士による栄養指導を一度も受けた事がない方〉、〈過去に
受けたがだいぶ時間が経っている方〉、〈食事療法が上手くいかずコントロール不良の方〉
等がいらっしゃいましたら、是非一度このシステムをご活用頂き、栄養指導を受けさせて
下さい。

○協力医療機関は下記の通りです。各医療機関に直接お申込み下さい。

（連絡先につきましては、既にお配りしております「予約担当窓口等一覧表」をご参照
下さい。

尚、医師会 HP の会員ページからもご覧頂けます。）

○協力医療機関（順不同）

（青梅市）

- 青梅市立総合病院
- 高木病院
- 武蔵野台病院
- 多摩リハビリテーション病院
- 青梅三慶病院

（福生市）

- 公立福生病院
- 目白第二病院
- 大聖病院
- 高村内科クリニック
- 福生クリニック

（羽村市）

- 羽村三慶病院
- 西多摩病院
- 柳田医院

（瑞穂町）

- 高沢病院
- 丸野医院
- 菜の花クリニック

（日の出町）

- 大久野病院

西多摩医師会市民健康講座

学術部

昨年10月28日土曜日に羽村市コミュニティーセンターで市民健康講座を開催致しました。台風22号が日本列島に近づき小雨もばらつくあいにくの天気の中、38名の市民の方々が参加されました。第1部は「病院・診療所の役割の違いと地域医療連携について」の題目にて、病床機能やかかりつけ医機能等について玉木一弘会長が講演を行い（東京都相互理解のための対話促進支援事業に相当）、第2部は「乳がんについて」の題目にて公立福生病院の乳がん診療チームによる講演が行われました。以下に抄録を掲載します。



I. 「最新の乳がんの診断、治療について」 公立福生病院 外科 瀬沼幸司 先生

1) 乳腺外来受診のきっかけ

- ① しこり
- ② 乳頭分泌物（血性、透明、白色、褐色等）
- ③ 痛み
- ④ 皮膚の変化（発赤、くぼみ等）
- ⑤ 無症状（乳がん検診で要精密検査等）

2) 乳腺の検査

スクリーニング検査（しこりや異常を見つける検査）

- ① マンモグラフィ検査（石灰化を見つけるのが得意）
- ② 超音波検査（腫瘤を見つけるのが得意）

精密検査

- ① 穿刺吸引細胞診、組織診（良性、悪性の判定）
- ② CT検査（乳腺外への広がり診断：肺、肝臓、骨等）
- ③ MRI検査（乳腺内の広がり診断）

3) 乳がんの治療

局所療法（局所の治療）

- ① 手術療法：乳房切除術、乳房温存術、センチネルリンパ節生検等
- ② 放射線療法

全身療法（微小転移、遠隔転移の予防）

- ① ホルモン療法（ホルモン受容体陽性乳がんに適応）
 - ② 化学療法
 - ③ 分子標的療法
- 4) 治療は乳がんのサブタイプにより選択される
- ① ルミナル A タイプ（ホルモン受容体陽性 かつ HER2 陰性）
→基本的にホルモン療法を選択
 - ② ルミナル B タイプ（ホルモン受容体陽性 かつ HER2 陽性）
→基本的にホルモン療法，化学療法，分子標的療法を併用する
 - ③ ハーツタイプ（ホルモン受容体陰性 かつ HER2 陽性）
→基本的に化学療法，分子標的療法を併用する
 - ④ トリプルネガティブタイプ（ホルモン受容体陰性 かつ HER2 陰性）
→基本的に化学療法を選択

治療は乳癌診療ガイドラインに基づき、患者ごとに調整をしていく。

II. 「乳がん患者さんへの看護師の関わり」

公立福生病院 乳がん看護認定看護師 近藤由香 様

現在 2 人に 1 人が、がんにかかる時代である。乳がんは日本人女性の罹患するがんの第 1 位であるが、乳がんを予防する確実な方法はなく、早期発見・早期治療が重要となっている。そこで、早期発見のための自己検診のタイミングやポイントと早期治療に関わる看護師の役割を以下に示す。

1. 早期発見と予防について

1) 自己検診のタイミング

閉経前は月経開始から終了 1 週間の乳腺がはっていない時期。閉経後は月 1 回の自分の覚えやすい日にちを決めて行う。C 領域（脇の下から乳腺側）が乳がんの出来やすい場所であるため、注意して見て触る視触診を行う。

2) 日本人における生活習慣と乳がんの関係

閉経後の肥満は乳がんのリスクがあるため適度な運動を行う。喫煙はリスクあり。食事は何でもバランスよく摂取する。イソフラボンの取り過ぎは逆効果であり、近年話題のプラセンタ（美容目的で使用されることが多い）は勧めない。

3) 各市町村の検診（40 歳以上 2 年に 1 回の乳がん検診）を受ける。乳腺の異常を見つけた場合もしくは検診の結果が「要検査」となった場合は良性腫瘍と悪性腫瘍の判断を行うために病院を受診する。

2. 早期治療に関わる看護師の役割

1) 看護師が診察や検査に付き添い、不安の軽減に努める。当院では総合相談（看護相談・医療福祉相談・患者の声相談窓口）があるため、専門職が窓口となり個々の相談に応じる。

2) 外来・病棟の看護師は予定通りの治療がスムーズに進められるよう専門職と連携をとりながら関わる。

乳腺の異常を見つけた場合・乳がん検診で要検査となった場合は…
『がんだったらどうしよう』と不安にならずに
『がんでないことを確かめる』
『がんであっても、早期診断・早期治療』
と考えると、早めに・心配しすぎず受診して下さい

上述の2人の演者に続き同病院外科診療部部長の五月女恵一先生により「乳がんには負けないで」の題目にて講演が行われました。公立福生病院に就任し2003年5月以来1,000名以上の患者さんに対して手術を行ってきた先生ならではの「病院に来るか悩んでいる人も安心して来て下さい」というメッセージには患者さんに対する愛情の重みを感じさせられました。

講演後には「どのような人が乳がんになりやすいのか?」「検診は何歳から受けた方が良いか?頻度は?」などの質問があり、前者に対しては遺伝性以外に閉経後の肥満や早い初潮、遅い閉経、授乳が少なかった人などにリスクが高いこと、後者については自治体では40歳以上に2年に1回の検診となっているが、35歳以上1回の方が早期発見が可能との回答を頂きました。また、乳房再建に対する不安の声には2009年以来203名の方に再建手術を行っているが満足度は9割近くあると回答されました。

残念ながら今回の市民健康講座の出席者数は例年と比較して少なめでした。医療情報はテレビやインターネットで容易に手に入れることが出来るようになりましたが、そのようなメディアではなく医療従事者自身の経験に裏付けされた生の声だからこそ心に響くものがあると五月女先生の講演を伺って感じさせられました。今後もこのような貴重な場を市民に提供していくのは医師会としての使命であり、またより多くの方々に参加して頂けるよう努力が必要なのでしょう。

文責：土田大介

第93回 多摩医学会講演会

平成29年11月18日(土)午後2時 パレスホテル立川にて多摩医学会講演会が行われました。

一般演題は三公立病院の先生方より一演題ずつ、特別演題は、地域における災害医療の課題について、玉木会長、江本先生より講演を頂きました。(抄録は以下)

学術部担当 栗原 教光



《一般演題》

1. ネフロン癆の10歳女児例

公立福生病院小児科

○山岸 徳子(研修医)・岡本さつき・松山 健
 都立小児総合医療センター腎内科

濱田 陸・幡谷 浩史

緒方謙太郎

児頭骨盤不均衡のため帝王切開で出生。乳児期から発達発育障害を認めていたが血液検査はなされていなかった。学校検尿で昨年まで一次検査で異常を指摘されていたが、二次検査で正常範囲と判定されていた。本年初めて尿蛋白陽性（潜血陰性）のため三次精検まで受診し腎機能障害を認めすぐに当院に紹介された。初診時 BUN 83.4mg/dL、Cr 5.61mg/dL、腎サイズは年齢的にやや小さめ。腎生検でネフロン癆と診断された。

本疾患は20万人にひとり程度とされるが、現在の学校検尿システムでは早期発見が困難なため要注意である。

2. 膣からの上行性感染により内性器の炎症所見が軽微にもかかわらず 原発性腹膜炎を来たした溶連菌感染の2例

青梅市立総合病院 産婦人科

寺本 有里

原発性腹膜炎は腹腔内に責任病変を認めない腹膜炎であり、稀な疾患である。当院で経験した溶連菌による原発性腹膜炎2例を報告する。

【症例1】40歳2経妊2経産。円錐切除術後のフォローアップの子宮頸部細胞診施行した同日下腹部痛が出現。39度台の発熱、shock vital、腹膜刺激症状、下痢、子宮頸部の圧痛を認め、CTでダグラス窩に腹水貯留と腹膜肥厚を認めた。血液培養、膣分泌物培養からA群溶連菌を検出。

【症例2】45歳2経妊1経産。12年前に子宮筋腫核出術施行。突然発症の腹痛と発熱を主訴に受診。39度台の発熱、shock vital、腹膜刺激症状があった。画像上手術適応のある子宮筋腫を認めたが明らかな腹痛の原因を認めず、抗菌薬投与し腹膜炎改善後に腹腔内洗浄および単純子宮全摘術、両側卵管切除術施行。病理所見では子宮、卵管に炎症所見を認めなかったが、術前の血液培養、膣分泌物培養、子宮内膜培養でB群溶連菌を検出。両症例とも抗菌薬投与で症状は軽快した。

3. 発熱が遷延した心室中隔欠損症（VSD）の70歳男性

公立阿伎留医療センター 内科

○木内 仁志・梶原 勲・岡部 龍太
片山 直之・松永 洋一・後藤 慎一
国吉 孝・梅津 道夫・榎田 光夫

症例は70歳男性。悪寒戦慄が生じ某病院に救急搬送された。排尿障害による腎盂腎炎と診断され抗菌薬にて加療を受け、かかりつけの当院泌尿器科に転院となった。膀胱瘻を造設しセフェム系抗菌薬を継続したが、間欠熱が続き精査加療目的に当科へ転科となった。夜間に39°C台の間欠熱を認め、聴診上第3肋間にLevinIV度の収縮期雑音を聴取した。採血で炎症反応の亢進、経胸壁心エコーではVSD（腹様部中隔欠損型）、大動脈弁に高輝度構造物、肺動脈弁に可動性のあるひも状のエコー像を認めた。前医の血液培養でAerococcus urinaeを認め、感染性心内膜炎として抗菌薬を開始し次第に改善した。経食道心エコーでは大動脈弁に疣贅は認めず、肺動脈

弁の破壊と疣贅を認めた。VSD は感染性心内膜炎の危険因子であり、尿路感染症を契機に発症した右心系感染性心内膜炎と思われ文献的考察を加えて報告する。

《特集演題》

テーマ「地域における災害医療の課題」

1. 地域包括ケアシステムにおける医師会の取り組みについて（その4）

～包括ケアの達成課題：災害時要配慮者支援の確立に向けて～

一般社団法人 西多摩医師会

○玉木 一弘・石田 信彦・江本 浩・土田 大介
進藤 幸雄・川上 正人・栗原 教光

前報では8市町村に跨る広大な山間や河川沿に、多数の集落、慢性期・精神科病床、介護施設が点在し、震災だけでなく雪雨土砂災害等のリスクが高い西多摩の特性を踏まえ、医師会 BCP 策定の道筋を報告した。そこにおいて、療養の基盤を喪失した、在宅・施設療養者等災害時要配慮者のケア継続と災害関連死の予防体制の確立は、地域包括ケアシステムの重要な達成課題と位置付けた。本報では被災した災害時要配慮者に関し、在宅療養継続者の把握、一般避難所でのトリアージ、医療・介護・福祉事業所での避難受け入れについて検討した。現場での心のケア、口腔・栄養・運動・医療・介護等療養支援については、特に低栄養・低活動・不良姿勢・摂食機能等に着目し、JMAT 研修を足掛かりに多職種総合支援チームの結成をめざすこととし、その機能目標を設定した。また、要配慮者向け備蓄品の整備、災害時個別支援計画の推進、協定に基づく地域自治体と医療・介護・福祉事業所の連携訓練等に着手したので報告する。

2. 西多摩地域における災害医療活動への医師出務上の問題点と課題

－医師会員アンケート調査からの検討－

一般社団法人 西多摩医師会

○江本 浩・玉木 一弘・肥留川賢一・宮城 真理・近藤 之暢
奥村 充・栗原 教光・馬場 眞澄・川辺 隆道・田原 邦朗
河西 克介・吉田 英彰・雅楽川 聡

西多摩地域では災害医療体制の構築にあたり3公立病院を災害拠点病院と位置付け、青梅（青梅市、奥多摩町）福生（福生市、羽村市、瑞穂町）あきる野（あきる野市、日の出町、檜原村）の3ブロックごとに災害医療計画を策定中である。そこで我々は、災害時医療救護活動に出務する会員の災害時の協力体制と自宅のま所在地などに関するアンケート調査を実施し、全体および3ブロック別に集計した。195施設中、158施設（81%）から回答あり、そのうちの81%が医療救護活動（緊急医療救護所62%、医療救護所74%、自院活動81%）に協力可能。会員の自宅所在地は、西多摩地域内が全体の56%（福生42%、青梅68%、あきる野56%）で、自宅と診療所の距離が10km以内の医師は全体で53%（福生46%、青梅60%、あきる野41%）。会員の約半数が西多摩地域外に居住するため、休日や夜間早朝の発災時は出務体制上、人員不足が予想され計画策定上の問題もあり、今後の検討課題である。

西多摩医師会学術講演会抄録

日時：平成 29 年 11 月 8 日（水）19:20～21:00

場所：公立福生病院 1 階多目的ホール

「皮膚の病気あれこれ～蕁麻疹や湿疹・皮膚炎群など皮膚疾患全般を通じて～」

国立病院機構 災害医療センター 皮膚科 医長 千葉 由幸 先生

「皮膚科の先生はどんな仕事をしているのだろうか?…」そんな疑問を持たれている先生もいらっしゃるのではないのでしょうか。皮膚科の診療経験がある方ならともかく、経験のない方にとってはとつつきにくい診療科目かもしれません。また顕微鏡一つあれば開業ができる、とってお手軽な科（ある意味、事実ですが）という印象を持たれている方もいるかもしれませんね。しかし実際には湿疹・皮膚炎・水虫はもとより、自己免疫性疾患あり、腫瘍あり、重症感染症あり、と内科的要素と外科的要素を併せ持ち、他科との連携も非常に多岐にわたり幅広い診療を行っている科でもあります。今回、私が過去に経験した症例を中心に、様々な皮膚疾患を皆様と供覧したいと考えています。あまり学術的な内容ではないのですが、お付き合いいただければ幸甚です。

平成29年 西多摩医師会 忘年・クリスマス会



平成 29 年 12 月 5 日（火）午後 7 時 30 分より、昭和の森フォレストイン昭和館で毎年恒例の西多摩医師会互助会主催の忘年クリスマス会が開催されました。お子さん 16 名を含む総勢 169 名の参加を頂きました。

石田信彦副会長より開会挨拶、玉木一弘会長より開催挨拶があり、元西多摩医師会会長・現東京都医師会代議員会議長の真鍋勉先生に乾杯の御発声を頂き、パーティーの開演となりました。

しばし食事を楽しみ、御歓談いただいた後、イベントがスタートしました。今年は玉木会長自らの企画・立案による第一部のバンド演奏と第二部の演奏福引会が用意されました。

バンド演奏は市川克実とハニーライツの皆様がグループサウンズの名曲を中心にすばらしい演奏と歌唱を繰り広げていただき会場の人達を 40 分間魅了し続けてくれました。市川さんは千代田区九段で 43 年間ライブハウスを経営され、オーナー歌手として活躍され、ギターの名手でもあります。そのファンには玉木会長のみならず、横倉日本医師会会長、小泉純一郎元首相、落語家の桂文枝師匠、歌手のジュディ・オングさん、庄野真代さんら多種多様な顔ぶれがそろいます。

この演奏の間にはピエロが子供達の所を回り、クリスマスプレゼントを渡しました。演奏福引会では市川克実とハニーライツの皆様と玉木会長、多摩リハビリテーション病院の田口弘之先生ら医師会メンバーが数人参加し、「RPG」「クリスマスイブ」「若い広場」「恋するフォーチュンクッキー」など 6 曲を演奏し、その都度 10 等賞より 1 等賞まで計 73 人の方にプレゼントが当たりました。なお 5 曲目の「クリスマスソング」では真鍋勉元会長も共演されました。1 等賞のパナソニック ロティサリーグリーン&スモークは日白第二病院の安部学先生が引き当てられました。大変盛りあがった福引会でありました。

福引会の後半で日本医師会会長寿会員慶祝者として銀杯を授与された元西多摩医師会会長・松原貞一先生、日本医師会代議員在任 10 年で日本医師会優功賞を日本医師会創立 70 周年記念式典において表彰された真鍋勉先生、元東京精神神経科診療所協会会長の功績が認められ東京都功労者表彰式において表彰された西多摩医師会監事の中野和広先生の御三方に花束の贈呈が行われました。その後、前医師会会長・現監事の横田卓史先生に中締めをお願いし、江本浩副会長より閉会挨拶を頂き、無事忘年クリスマス会は終了となりました。

尚、本会の準備・運営に際しては、例年以上に西多摩医師会 鈴木事務長を始め、笛田さん、野口さん、山野井さんらスタッフにご協力いただき、誠にありがとうございました。御礼申し上げます。
(文責 総務担当 佐藤正和)



【表彰】 真鍋・松原・中野各先生



片倉和彦先生『身体障害者等社会参加促進功労者厚生労働大臣表彰』

平成 29 年 12 月 5 日奥多摩町双葉会診療所の片倉和彦先生が『身体障害者等社会参加促進功労者厚生労働大臣表彰』を受賞されました。授賞式は皇居で行われ、天皇后陛下に拝謁いただきました。この賞は、聴覚障害者の精神医療に取り組んでこられた事が高く評価されたものです。西多摩地区からの受賞であり、大変誇らしいものであります。会員の皆様にご報告させていただきます。

広報部 古川朋靖



第16回西多摩医師会臨床報告会のご案内及び演題募集について

時下、益々で清祥のこととお慶び申し上げます。

第16回西多摩医師会臨床報告会を下記の要領で開催致します。つきましては、日常診療でお忙しいとは思いますが、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時：平成30年2月22日(木) 午後7時30分から

開催場所：公立福生病院 多目的ホール

演 題 募 集

西多摩医師会会員の皆様の臨床での貴重な経験を発表してください。

演題名および抄録を西多摩医師会へFAXしてください。

発 表 者：西多摩医師会会員に限ります。

コメディカルのご発表は会員との共同発表になります。

発表希望者が多数の場合、次回発表とさせていただきますことがあります。

発表内容：症例報告、臨床研究、医院の運営方法、その他会員が聞いてためになることなら何でも構いません。

発表時間：1演題10分でご発表いただき討論を含めて15分の予定です。

応募要領：発表内容を400字程度にまとめてFAX又はメールをお願いします。

発表者の抄録は、医師会会報に掲載します。

尚、スライド・パワーポイント等使用を明記して下さい。

募集期間：平成29年12月18日(月)～平成30年2月2日(金)

(西多摩医師会 FAX 0428-24-1615 0428-23-2160 E-MAIL info@nishitama-med.or.jp)

お詫びと訂正

平成29年11月・12月号28ページ【医師会の動き】講演会・その他の中で先生のお名前他に誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。

30日在宅医療講座

① 左 下から3行目

正・・・**包括ケアシステム**

誤・・・包括システム

② 左 下から2行目

正・・・**人工知能搭載ロボット**

誤・・・人口知能搭載ロボット

③ 右 上から1行目

正・・・**土屋輝昌先生**

誤・・・土田輝昌先生

西東京医師協同組合 第35回囲碁大会ご案内

日 時：平成30年2月25日（日）午前9：30 集合

10：00 競技開始

会 場：北多摩医師会館 TEL 042-524-6411

会 費：5,000 円

参加資格：医師会会員及びその家族

競技方法：スイス方式、1局1時間30分以内、1日4局打ち

賞 品：競技順位に関係なく全員に渡ります

懇親会：同一場所にて5時より行います

参加ご希望の方は2月1日（木）までに西多摩医師会へお申し込みください

TEL 0428-23-2171

■競技ルール

1. 第1局目に30分以上遅刻の場合は不戦敗とします
2. 対戦相手は、同勝ち数者の抽選にて決めさせていただきます
3. 同段、級者の対局はニギリ、コミ6目半とします
4. 他段、級者との対局は、1段、級差1子とし、ジゴは双方半勝とします
5. 1局1時間30分以内で終局させていただきます。そのため対局が始まって1時間20分を過ぎても終局しないときは、その後1手30秒の秒ヨミとします
6. 順位はスイス式で決めさせていただきます。その方法は下記の通りとします
 - イ。「勝ち試合の数の多い選手」を上位とします
 - ロ。同勝ち試合数の場合は「対戦相手のポイント数の多い選手」を上位とします
 - ハ。勝数、ポイント数とも同じ場合は「勝って戦った相手のみのポイントの多い選手」を上位とします
 - ニ。勝数、2種類のポイント数でも同数は「その当事者間同士が対戦していた時はその勝者」を上位とします
 - ホ。最後は生年月日により年齢が上の先生を上位とさせていただきます
申し込みの際に生年月日をお願いいたします

広報だより



進藤医院 進藤 幸雄

2017年にノーベル文学賞に輝いたカズオ・イシグロさんの「私を離さないで」は臓器提供のために作られたクローン人間達の生活を描いた作品です。クローンたちが、閉鎖された空間で生きてゆく様を描いた、読んでいて少し息苦しさを感ずる小説です。

クローン羊ドリーが誕生したのは1996年、当時クローン人間が作られてしまうのではないかと危惧されましたが、法律で厳しく制限されたこともあり、今のところクローン人間誕生には至っていません。

ドリーを誕生させたクローン技術は、核の移植による個体のクローン化です。体細胞から取り出した核を、脱核した初期胚に移植し胚性幹細胞(ES細胞)を作り出すクローン技術です。初期胚は「生命の萌芽」と位置付けられており、これを扱うことには倫理的に大きな問題を抱えており、再生医療が爆発的に進むというわけにはいきませんでした。また、他人の受精卵を使用するので拒絶反応等の問題を抱えていました。

一方、山中伸弥教授の研究によって誕生した人工多能性幹細胞(iPS細胞)は、体細胞に特別な遺伝子を導入して培養することで、多分化性のある未分化細胞に変える技術です。iPS細胞はES細胞と同様に体中の様々な細胞へと分化させることが可能です。そしてこの細胞はもともと自分の体細胞由来なので拒絶反応が起きません。また受精卵も使用しないので倫理的問題もクリアしました。そして、ドリーで問題になったテロメアの長さに関しても、iPS細胞では、なんと細胞提供者の年齢にかかわらず0歳のテロメアの長さと同じとのこと。つまり細胞が完全に若返りを果たしたとも言えます。

但し、これをもって臓器再生がすぐに可能になったかといえば、まだ課題は残されており、様々な臓器の細胞に分化させた組織は作成できても、人間の体内で機能するような立体的な臓器の作成はまだ出来ていないのだそうです。昨年末に、文部科学省が、動物の体内で人の臓器を作らせる基礎研究を大筋で認めたという記事を目にしました。例えば、ヒトの臓器を持ったブタを作り出し、ここから臓器を取り出すということのようです。勿論我々が危惧するような動物が人の顔をしていたり、人の知能をもった動物の誕生の可能性は否定されているそうです。その他3Dプリンターを応用する方法等、様々な方法が検討されているようです。

iPS細胞を用いた再生医療は網膜色素変性症等ですでに臨床応用されており、今後実用化のラッシュを迎え、2040年頃には様々な臓器治療に日常的に応用されることが予想されています。再生医療は人類にとって非常に期待の持てる明るい話です。未知の可能性に、やはりどこかに不安感を感ずますが、最先端をゆく日本がリードする大きな可能性に期待したいと思います。

連載企画



CPAP 体験談

学術担当 栗原 教光

ピコ太郎の PPAP ではない、持続陽圧呼吸療法 (Continuous Positive Airway Pressure) である、デモで一か月程装着してみたので具合をお話します。

小さな時から自分のいびきで目が覚めた記憶がある、学生時代ラグビー部の合宿、最後の打ち上げの日、朝、目が覚めたら下駄箱の前で寝ていた。後輩に「どうして俺 (副将、宴会係) はここに寝ているんだ」と聞くと申し訳なさそうに「先輩のいびきが余りにもひどいので監督命令で皆で布団ごと運びました」との事であった。

最近自宅でも、海で溺れる夢を見て目が覚めたら顔に枕がかぶせてあったり、地震かと思って飛び起きたら、うるさくて足で蹴とばされていたりやらの状態である。そんなある日、総合病院から CPAP の継続依頼がとびこんだ、元々興味があったのでメーカーにデモをさせてもらえないかと頼んだらすんなり OK を頂いた。

まず簡易睡眠検査を受けた結果は AHI (無呼吸低呼吸指数) 22 で中程度の無呼吸状態であるとのことであった。(AHI40 以上は保険適応でクリニックでも導入可) その後ワクワクして CPAP を装着してみたので以下自分の感想を述べる。

長所

翌日頭がスッキリしていて、午前の診療がはかどる
家人に枕を顔にかぶせられたり、蹴とばされなくなった
朝の血圧が少し下がった
不思議なことに夜トイレに起きなくなった
二日酔いが軽くなった
家族が良く眠れるとの事
何よりも睡眠の有難さを再確認した

短所

愛犬キャバリア (名前レディー) がマスクを装着すると怖がって逃げていく
おやすみなさいが言えない (口を開けるとエアーが、ガーと口から漏れるため)
缶ビールが 1 本増えた
機械人間になってしまった感じがする
朝、髪の毛の寝ぐせがひどい

医師会の先生方でもいびきでお困りの方が多いのでは? まずは、トライ
ちなみに CPAP を扱っているメーカーは、テイジン、フクダライフテック等です。

ps

先日 40 代の夫婦が無呼吸の相談で来院した、主人のいびきがひどく何をしても起きないとのこと。「でも先生、最近一つだけ起こす方法を見つけました」と、何ですかと尋ねると耳元で大声で「このハゲー」と叫ぶと起きるんですよと笑っていた。男性は「これっていじめですよ」と、私に助けを求めた。

◇学術講演会予定

29.12.19

開催日	開始～終了 時間 開催時間	会場	単 位 数	カリキュラム コード	集会名称・演題	講師（役職・氏名）
1.12 (金)	19:20 ～ 20:30	青梅市立 総合病院	1	51	学術講演会 「小児急性胃腸炎ガイドラインと 経口補水療法」	済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科 副部長 十河 剛 先生
1.29 (月)	19:30 ～ 20:30	公立阿伎留 医療センター	1	45	公立阿伎留医療センター医局講演会 CPC 「舌生検で確定診断した A L型心ゼアミロドーシスの一例」	症例提示者： 公立阿伎留医療センター 研修医 木内 仁志 先生 循環器内科 岡部 龍太 先生 病理： 東京女子医科大学医学部 病理第一講座 教授 澤田 達男 先生
2.1 (木)	19:30 ～ 21:00	羽村市 生涯学習 センター ゆとろぎ	1.5	76	学術講演会 「糖尿病の薬剤選択 2018」	国立国際医療研究センター 糖尿病情報センター長 大杉 満 先生
2.16 (金)	19:30 ～ 21:00	青梅市立 総合病院	1.5	24 45	学術講演会 【講演Ⅰ】 「ADL維持を意識した心不全治療」 【講演Ⅱ】 「心不全の心リハを早期導入するた めには」	東京大学大学院 医学系研究科 ユビキタス予防医学講座 特任助教 上田 和孝 先生 藤田保健衛生大学 坂文種報徳會病院 循環器内科 教授 井澤 英夫 先生
2.20 (火)	19:30 ～ 21:00	公立阿伎留 医療センター			第31回西多摩消化器疾患カンファレンス 「未定」	福島県立医科大学 先端癌免疫治療研究講座 特任教授 柴田 雅彦 先生
2.22 (木)	19:30 ～ 21:00	公立 福生病院			西多摩医師会臨床報告会 演題募集中	
2.26 (月)	19:15 ～ 21:00	フォレスト 昭和館	1	76 82	T 2 D M F o r u m i n 西多摩 ～腎臓・心臓保護の観点から～ Special Lecture I 「S G L T 2 阻害薬を検証する －腎臓専門の立場から－」 Special Lecture II 「循環器医からみた糖尿病治療の転換」	日本大学医学部 内科学系 腎臓高血圧内分泌内科学分野 主任教授 阿部 雅紀 先生 桜橋渡辺病院 心臓血管センター長 兼検査科部長 岩倉 克臣 先生

理事会報告

★ Information

10月定例理事会

平成29年10月24日(火)

西多摩医師会館

(出席者：玉木・石田・江本・奥村・川上・栗原・佐藤・土田・馬場・古川・宮城・横田・中野)

【1】報告事項

(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告

10/13に開催された標記協議会の内容・伝達事項等について、資料により説明報告された

(2) 各部報告

総務部（社会保険担当）：○10/24に開催された「市町村国保主務担当者との懇談会」の内容・状況等について

公衆衛生部：○都国保連合会からの「30年度国保特定健康診査に係る委託契約単価について（お願い）」（資料）の通知内容等について

災害医療対策委員長：○10/19に開催された「平成29年度第1回西多摩保健医療圏地域災害医療連絡会議」の内容・状況等について

(3) 地区会報告（各地区理事）：

青梅市

福生市 10/17 定例会を開催

10/20 休日診療に係る検討会を開催

10/29 健康祭りに参加予定

羽村市

あきる野市 10/16に開催された臨時総会において新会長に下村智先生が選出された件等について

瑞穂町

日の出町

(4) その他報告：

○「保健事業の実施計画（データヘルス計画）策定の手引き」の改定について

資料により当会の標記計画推進協力事業案の内容等について説明・報告、10/24の「市町村国保主務担当者との懇談会」においても同様の説明を行ったことを報告

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により、正会員1名・準会員1名の入会申請が紹介報告され可決承認された、正会員1名の退会・1件の異動届が紹介・報告された

【3】協議事項

(1) 「西多摩広域行政圏在宅医療介護連携推進事業（医療・介護関係者研修）」の協力依頼について

資料により、標記の協力依頼内容等が紹介・説明され、講演・事例研究について協力することにつき承認が求められ、可決承認された

— 可決承認 —

- (2) あきる野市立増戸中学校及び五日市中学校の学校医（内科医）の推薦について（依頼）
資料により、あきる野市教育委員会からの標記依頼内容につき紹介・説明され、依頼通り2名の先生を推薦することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

【4】その他 特になし

11月定例理事会

平成29年11月14日(火)

西多摩医師会館

(出席者：玉木・石田・江本・奥村・川上・栗原・佐藤・進藤・土田・馬場・古川・宮城・中野・横田)

【1】報告事項

(1) 各部報告

学術部：○10/28に開催した「市民健康講座」の状況等について

地域医療部：○資料により行政からの「平成30年度学校医等各種報酬及び予防接種委託料について（要望）」について紹介報告、今後の交渉において、各種報酬等については29年の人事院勧告を考慮し増額、診療報酬単価については前年単価を据え置きとしたい旨を示すこととする

経理部：○平成29年度中間期(9/30)の収支状況について資料により説明報告

(2) 地区会報告（各地区理事）：

青梅市 11/7に医師会の懇親会開催

福生市 11/7に理事会開催

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

(3) その他報告

○都医「第2回 地域包括ケア委員会」(10/26 進藤 晃委員)

○都医「第2回 病院委員会」(10/27 進藤 晃委員)

進藤委員から提出された資料により上記2委員会の内容等について確認された

○都医「第1回 産業保健委員会」(10/26 馬場 真澄委員)

○平成29年度 第1回(肺がん)がん検診受託機関講習会(10/26)

資料により上記委員会・講習会の内容等について報告・確認された

○平成28・29年度 日本医師会社会保険診療報酬検討委員会諮問①

答申書ならびに「次期(平成30年度)診療報酬改定に対する要望書」の送付について

○がん対策推進基本計画の変更について

資料により上記要望書の内容等及び計画の変更点について説明・報告された

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により準会員2名の入会申請が紹介報告され可決承認された、また、退会1名が報告された

(2) 第7次医療計画及び第7期介護保険事業（支援）計画における整備目標及びサービス量の見込みに係る整合性の確保に関する協議の場の開催及び参加の推薦について

— 承認 —

資料により都医からの標記依頼内容等について説明、時間の都合もあり、資料の通り4名の代表を推薦したことを報告、事後承認が求められ可決承認された

【3】協議事項

(1) 個人防護具の配備及び着脱訓練講師の派遣事業に係る意向調査の実施について

標記意向調査への回答につき協議、個人防護具の配備及び着脱訓練講師の派遣を希望する方向で回答することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

(2) 主治医意見書記載に係る対価について

資料により、標記対価に係る見直しに当たり当会としての意見が求められていることが紹介・説明され、回答内容について協議、*新規・継続申請者の定義が曖昧であり改善を望む*現在の対価を下回らないこと、以上を意見として回答することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

【4】その他 特になし

11月定例理事会

平成29年11月28日(火)

西多摩医師会館

(出席者：玉木・江本・奥村・川上・栗原・佐藤・進藤・土田・馬場・古川・宮城・横田・中野)

【1】報告事項

(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告

11/17に開催された標記協議会の内容・伝達事項等について、資料により説明報告された

(2) 各部報告

総務部（会員福利互助担当）：○12/5に開催予定の「忘年クリスマス会」に係る参加希望者数等の状況について

総務部（社会保険担当）：○診療報酬点数改定に係る講習会の開催日（3/28・29日）開催場所等について

学術部：○11/18に開催された「第93回多摩医学会」の状況等について

(3) 地区会報告 (各地区理事) :

青梅市

福生市

羽村市 11/24 に羽村市三師会忘年会開催

あきる野市 11/20 に例会開催

瑞穂町

日の出町

(4) その他報告 :

特になし

【2】報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により準会員 1 名の入会申請が紹介され承認された

【3】協議事項

(1) 「平成 30 年度学校医等各種報酬及び予防接種委託料について (要望)」について

標記事案に係る行政との交渉結果について資料に沿い紹介報告され、*学校医等の各種報酬については、人事院勧告の改定率にかかわらず前年度と同額とする*予防接種委託料の報酬単価については、前年度から 0.1 円減額した 10.7 円とする、以上を了承することが提案され、可決承認された

— 可決承認 —

【4】その他 特になし

12月定例理事会

平成29年12月12日(火)

西多摩医師会館

(出席者: 玉木・江本・奥村・川上・栗原・佐藤・進藤・土田・馬場・古川・宮城・中野・横田)

【1】報告事項

(1) 各部報告

総務部 (会員福利互助担当) : ○ 12/5 に開催した「忘年クリスマス会」の状況等について報告

(2) 地区会報告 (各地区理事) :

青梅市

福生市 12/8 に休日診療所に係る研修会及び忘年会開催

羽村市 12/8 に忘年会開催

あきる野市

瑞穂町

日の出町 12/11 に歯科との連絡会及び忘年会開催

(3) その他報告

○都医 第3回地域包括ケア委員会（11/30 進藤晃委員）

○都医 病院委員会（12/4 進藤晃委員）

進藤委員から提出された資料により上記2委員会の内容等について確認された

○インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に係る全国的な動向に関する研究に対する協力について

標記に係る都医からの通知内容について資料により紹介・報告

【2】 報告承認事項

(1) 入退会会員、会員異動について — 承認 —

資料により正会員2名・準会員2名の申請が紹介・報告され承認された

(2) 平成30年度学校医等各種報酬及び予防接種委託料の最終案について

標記に係る行政との交渉がまとまり、資料として最終案が紹介・報告され承認された

— 承認 —

【3】 協議事項

(1) 平成30年度羽村市公立学校医の推薦について（依頼）

標記依頼につき、羽村地区より松林小学校の校医を山川淳二先生から馬場一徳先生に変更し、その他は平成29年度と同様の先生を推薦することが上程され可決承認された

— 可決承認 —

(2) 平成29年度西多摩保健所難病対策協議会の委員の推薦について（依頼）

標記依頼につき、前年同様進藤幸雄先生を推薦することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

(3) 平成30年度あきる野市立小・中学校学校医（内科医・精神科医）の推薦について（依頼）

あきる野地区とあきる野市教育委員会の合意に基づく推薦希望の学校医が説明・紹介され、依頼通りの先生を推薦することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

(4) 都医公衆衛生委員会のアンケート調査の実施について（胃がん内視鏡検診に関するアンケート調査）

都医からの標記アンケート調査の依頼について説明・紹介され、各市町村ごとの回答提出が必要なことから、出席理事の市町村については各項目の回答を確認、奥多摩と檜原については地区長にアンケートを送付し回答を依頼することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

【4】 その他 特になし

会員通知

- 会報11-12月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 学術講演会（11/1、11/8、11/15、11/21、11/22、11/29、12/5）
- 産業医講習会（2/10、日本医師会）
- “ ” （12/11、中野区医師会）
- “ ” （12/16、三鷹市医師会）
- “ ” （3/10、順天堂大学医師会）
- “ ” （3/10・11、日本大学医師会）
- 忘年クリスマス会開催のご案内（12/5）
- 訃報（小林康光先生）
- 「がん登録等の推進に関する法律」に基づく全国がん登録診療所指定の募集並びに説明会の開催について
- 「在宅療養ワーキング」傍聴について（11/15）
- 平成29年度東京都胃内視鏡検診講習会（12/9）
- 平成29年度児童虐待対応研修（12/7）
- 平成29年度東京都在宅療養推進シンポジウム（11/25）
- 平成29年度分確定申告についてのごお願い
- 西多摩保健所高齢者のフレイル対策への栄養面からのアプローチ事業研修会（2/8）
- 単回使用医療機器の取扱い再周知及び医療機器に係る医療安全等の徹底について
- 医療事故情報収集等事業第50回報告書の送付について
- 「かかりつけ医のための適正処方の手引き」の送付について
- ジェネリック医薬品差額通知の実施に伴う周知依頼について
- 平成29年度東京都医師会主催「日本医師会生涯教育講座」第三期（1月～3月期）の開催について
- 診療報酬請求書等の作成及び配布業務の終了について
- 第8回首都圏小児結核症例検討会のご案内（11/18）
- 舌下投与用スギ花粉エキス原末錠使用に当たっての留意事項について
- 西多摩保健所難病対策地域協議会 地域関係者向け研修会（11/24）
- 東京都大気汚染医療費助成制度改正のお知らせ
- ホスベックスジャパン2017
- 小児在宅サポートチーム勉強会
- 12月のレセプト提出日について
- 平成29年度各科医会の紹介と入会の御案内
- 第93回多摩医学会講演会抄録
- 「がん治療連携指導料」の施設基準届出に係る連携保険医療機関の新規追加及び届出内容の変更等について（平成30年1月1日算定）
- インフルエンザ情報（第1報・2報・3報・4報）
- 東京都認知症疾患医療センター指定について
- 感染性胃腸炎の流行期に向けた感染予防対策の徹底について
- 予防接種の間違い防止について
- 福生病院西多摩病診連携講演会
- 平成30年度新年賀詞交歓会
- 西多摩医師会費等請求書（平成29年度第3期諸会費）
- 第16回西多摩医師会臨床報告会のご案内及び演題募集について
- 都道府県における小児慢性特定疾病の患者に対する移行期医療支援体制」の構築について
- 平成29年度第4回検案サポート研修会」（2/20）
- 「**親**医療証をお持ちの方へ」の掲示について
- 第3回医療従事者肝疾患研修会
- 東京エイズ予防月間
- 西多摩保健所ほけんじょ日より
- 西多摩保健所 摂食嚥下機能支援基盤整備研修会（2/1・2/15）
- 年末年始休館のお知らせ
- 平成29年度日本医師会「認定産業医」新規申請について（第5回12月受付分）
- インフルエンザを予防しましょう
- 平成29年度「かかりつけ医認知症研修会」開催案内（2/18）
- 医療費控除は領収書が提出不要となりました
- インターネットで申告できます（国税庁）

医師会の動き

平成29年12月19日現在

医療機関数	194	病院	30
		医院・診療所	164
会員数	542	正会員	206
		準会員	336

会議

11月14日	第3回西多摩地域医療連携ICTシステム整備委員会
14日	定例理事会
28日	定例理事会
12月5日	忘年クリスマス会
12日	定例理事会
14日	第3回西多摩地域糖尿病医療連携症例検討会
19日	広報部会（会報編集）
19日	第3回西多摩地域脳卒中医療連携症例検討会
26日	定例理事会

講演会・その他

11月1日	第15回西多摩高血圧カンファレンス 【オープニングリマークス】 演題：「西多摩地域における生活習慣病の現状」 演者：野本医院 院長 野本正嗣先生 【特別講演】 演題：「治療抵抗性高血圧へのアプローチ」 演者：日本大学短期大学部 食物栄養学科 教授 高橋 敦彦 先生
11月7日	西多摩地域脳卒中医療連携症例検討会 A.地域医療介護連携 (1)「回復期から訪問への引き継ぎーQOLが向上した1症例」 羽村三慶病院 在宅支援部・回復期訪問リハビリ理学療法士 須賀川 裕美氏 (2)「超高齢脳梗塞患者のQOL

を考慮した看護」

青梅市立総合病院 看護師 田島 歩氏

(3)「当院急性期・回復期を通じて、自宅退院された脳出血の一症例

ー本人・家族のHOPEに着目してー」

公立阿伎留医療センター リハビリテーション科 理学療法士 白江 優衣氏

(4)「回復期からの継続した支援により自動車運転再開に至った一例」

大久野病院 通所リハビリテーション 作業療法士 渡邊 悠馬氏

B.個別ケア多職種連携

(5)「自分らしく暮らす～高次脳機能障害を持つ利用者への個別ケアを通して～」

(社福) 芳洋会 小規模多機能型居宅介護 サンライズ鉄心坊 管理者 関澤 亜樹氏

(6)「余命4日の退院支援」

あきる野市 高齢者はつらつセンター 主任介護支援専門員 仲宗根 京子氏

(7)「失語症のある患者に対する介人～多職種が連携したりハビリテーション～」

公立福生病院 4西病棟 看護師 森田 幸恵氏

(8)「片麻痺を抱えながら独居で在宅生活されている一例」

にしたま訪問看護ステーション 看護師 天池 かおり氏

C.看護・ケア・サポート

(9)「ストレスケア～心と身体の健康を目指して～」

(医社) 和風会 多摩リハビリテーション病院 介護士 斎藤 岬氏

(10)「地域における栄養サポー

- ト～在宅での栄養士の関わり～」
羽村三慶病院 栄養科 管理栄養士
三瓶 直美 氏
- (11) 「オーラルケアと脳梗塞
～オーラルフレイル・歯科からの
アプローチ～」
西多摩歯科医師会 歯科医師 森谷
尊文 氏
- (12) 「在宅復帰に向けての経口
摂取訓練を実施した一例」
(医社) 久遠会 高沢病院 I 病棟
看護師 上村 寛弥 氏
- 8日 保険整備会
- 8日 学術講演会
【特別講演】
演題：「皮膚の病気あれこれ」～
蕁麻疹や湿疹皮膚炎群など皮膚疾
患全般を通じて～ 演者：独立行政
法人 国立病院機構 災害医療セン
ター 皮膚科 医長 千葉 由幸 先生
- 10日 糖尿病症例検討会
【症例発表】
青梅市立総合病院内分泌糖尿病内
科 大坪 尚也 先生
公立福生病院内科 山岸 徳子 先生
- 15日 第24回西多摩呼吸器懇話会
【症例検討】
① 「胸部X線写真読影・解説
青梅市立総合病院 呼吸器内科
部長 磯貝 進 先生
② 「ご紹介いただいた症例のその
後」
梅郷診療所 江本 浩 先生
青梅市立総合病院 呼吸器内科
医員 伊藤 達哉 先生
【特別講演】
演題：「インフルエンザ診療の話
題」
演者：青梅市立総合病院 呼吸器
内科 副部長 高崎 寛司 先生
- 16日 法律相談
- 21日 西多摩地区糖尿病と合併症予防の
為の講演会
○Session1：
- 演題：「心血管イベント抑制を意
識した糖尿病治療
～SGLT2阻害薬による新たなア
プローチ～」
演者：東京大学医学部付属病院
循環器内科 清末 有宏 先生
○Session2
演題：「CGMからみた糖尿病治療
の薬剤選択を考える
～DPP4、SGLT2阻害薬の活か
し方～」
演者：東京慈恵会医科大学 内科
学講座 糖尿病・代謝・内分泌内
科 教授
東京慈恵会医科大学付属第三病院
糖尿病・代謝・内分泌内科 診療
部長 教授 森 豊 先生
- 22日 学術講演会
演題：「舌下免疫療法の今～スギ
花粉症とダニアレルギー性鼻炎に
対して～」
講師：日本医科大学多摩永山病院
耳鼻咽喉科 部長 後藤 稷 先生
- 29日 学術講演会
Anticoagulation Network
Meetinf -いま、抗凝固療法を再
考する-
【特別講演】
演題：「心房細動と脳梗塞-国内
データベースに基づいた DOAC
のRisk & Benefits-」 演者：岩手
医科大学 内科学講座 神経内科・
老年化分野 教授 寺山 靖夫 先生
【ディスカッション】
「-いま、抗凝固療法を再考する-」
Discussers 波多野医院 東京医科
大学 地域医療指導教授 波多野 嗣
久 先生
梅郷診療所 院長 江本 浩 先生
青梅市立総合病院 循環器内科部
長 小野 裕一 先生
- 30日 糖尿病教室
1. 糖尿病食を食べてみましょう
2. 糖尿病と足ケア（神経障害）

について
 12月6日 学術講演会
【特別講演】
 演題：「災害時のVTE治療～熊本地震から学んだこと」
 演者：御幸病院LTAC心不全センター病院長兼センター長
 西山 和宏 先生
 7日 保険整備会
 21日 法律相談

役員出張

11月1日 日本医師会設立70周年記念式典・講演会・懇親会
 6日 東京都地域医療構想調整会議に向けた勉強会
 11日 多摩地区医師会懇話会
 15日 医療と介護の「協議の場」・「在宅療養ワーキング」
 17日 地区医師会長連絡協議会
 17日 西多摩地区病院会発足20周年記念式典・合同年末懇親会
 18日 第93回多摩医学会講演会
 18日 板橋区医師会70周年記念祝賀会
 21日 生活保護指定医療機関指導立会
 21日 東京都地域医療構想会議
 21日 認知症医療介護連携協議会
 30日 西多摩保健所摂食嚥下協議会
 12月15日 地区医師会長連絡協議会
 18日 東京都医師会役員就任披露・年末懇親会

【新規開業】

氏名 黒澤 毅文
 施設名 小机クリニック
 所在地 あきる野市小中野160
 出身校大学 日本大学 平成21年3月卒

氏名 小高 哲郎
 施設名 あきる野の杜ぎざなクリニック
 (H30年5月開業予定)
 所在地 あきる野市五日市149-1
 出身校大学 東京大学 平成9年3月卒

【入会会員】(正会員)

氏名 滝沢 隆雄
 勤務先 (医社)豊寿会 熊川病院
 出身校大学 日本医科大学 昭和45年3月卒

【退会会員】(正会員)

氏名 田坂 哲哉 (死亡)
 勤務先 (医社)豊寿会 熊川病院

【入会会員】(準会員)

氏名 工藤 耕太郎
 勤務先 (医財)良心会 青梅成木台病院
 出身校大学 山梨医科大学 平成14年3月卒

氏名 森 聡史
 勤務先 公立阿伎留医療センター
 出身校大学 日本大学 平成26年3月卒

氏名 余語 久則
 勤務先 公立阿伎留医療センター
 出身校大学 群馬大学 平成14年3月卒

氏名 江本かおり
 勤務先 梅郷診療所
 出身校大学 杏林大学 平成26年3月卒

氏名 真鍋 歩
 勤務先 (医社)真愛会 真鍋クリニック
 出身校大学 日本大学 平成21年3月卒

氏名 高崎 圭子
 勤務先 (医社)蹊洋会 朱躰寺内科クリニック
 出身校大学 東京女子医科大学
 平成24年3月卒

【退会会員】(準会員)

氏名 米山 一男
 勤務先 (医財)暁 あきる野台病院

【開設者変更】

(医社)豊寿会 熊川病院
 (新) 新谷 幸義
 (旧) 田坂 哲哉

お知らせ

事務局より お知らせ

保険請求書類提出

平成30年 2月 (1月診療分) **2月8日 (木)** 正午迄
 平成30年 3月 (2月診療分) **3月9日 (木)** 正午迄

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を
 毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。
 お気軽にご相談ください。

- ◎相談日 1月18日 (木)
 2月15日 (木)
 3月15日 (木)
- ◎場 所 西多摩医師会館
- ◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
 刑事に関するどのようなものでも結構です。
- ◎相談料 無料 (但し相談を超える場合は別途)
- ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
 (注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

訃 報

瑞穂町

石畑診療所

小林 康光 先生 (享年 89 歳)



去る平成29年10月22日 逝去されました。
 謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りいたします。

表紙のことば



『雪の多摩川上水』

大雪の日に多摩川上水で見掛けた光景です。普段何気なく通り過ぎていた所ですが、雪によって状況は一変。欄干に愛機を固定し絞り込んで撮影。

今年はラニーニャと黒潮の蛇行の影響で、降雪量が例年より多いようで、またこのような光景に遭遇する機会もありそうです。写真好きには千載一遇のチャンス到来と言ったところですが、ゴルフ好きには最悪です。

田村啓彦

あ と が き



平成30年の新春をお慶び申し上げます。
 本年が明るい展望の開ける年となることをお祈りいたします。

昨年の夏、医療支援の NPO 活動のため、ネパール・ドルポ地方を訪れました。活動の拠点はチベット国境にあるティンギュー村 (4200m)。辺境の地であるため交通機関はなく、徒歩と馬で約1週間の道のりです。

ところが例年と異なり、ネパール全土が天候不良で、ドルポに至る各所で川が氾濫し、橋が流されていました。そのため、肩までの激流を馬で渡渉したり、断崖絶壁を高巻したり、5000mの峠越えや予期せぬ1週間に及ぶ停滞など、困難なキャラバンとなってしまいました。

今回の目的は HBV の蔓延状態を把握して、ワクチン接種の必要性を探ること。ランセットに掲載された最近の報告では、ネパールの HBV の罹患率は1%とされ、日本とほとんど変わりはないのですが、政府の恩恵が全く届かない辺境の地ではどうか。

村の児童106人を対象にキットでアッセイすると、驚いたことに28人が HBV 陽性で25%以上の高率、感染経路は母子感染によるものと考えられました。今後はワクチン投与に向けた計画を推進できればと思っています。

ヒマラヤの高峰も神々しいのですが、ネパールから帰国して富士山を眺めるとホッとします。日本で最も高い山が最も美しいという天恵。富士は紛れもなく日本人の心の母体です。元旦の多摩川橋梁付近からは、ダイヤモンド富士を望むことができます。山と光が織りなすことはぎの芸術を是非ご覧あれ。

日の出が丘病院 神尾重則

一般社団法人 西多摩医師会

平成30年1月1日発行

会長 玉木一弘 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会 古川 朋靖

栗原 教光 土田 大介 鹿兒島武志 奥村 充 神尾 重則 近藤 之暢
菊池 孝 進藤 幸雄 前田 暢彦 松崎 潤 松本 学

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993

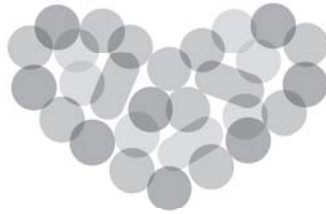
健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて・・・
(株)武蔵臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・S サービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659



AISEI

誰もがすこやかに、笑顔でいられる毎日を。

西多摩エリア 11店舗営業中

西分店	河辺店	野上店	野上8番店	羽村羽加美店	羽村五ノ神店
羽村店	第2羽村店	福生店	五日市店	あきる野店	

全国320店舗以上の調剤薬局ネットワークと業界トップクラスの医療モール開発



アイセイ薬局

健康の通信簿

健康ってどうやって調べるんだろう？

宿題やテストではわからないよね。

体の通信簿ってあるのかな？

成績悪いとおこられちゃう？

パパやママの成績がいいとうれしいな。



臨床検査事業

臨床検査/遺伝子検査/予防医学/治験検査



医療情報システム事業

電子カルテシステム販売・保守



関連事業

食品衛生検査/環境検査/歯科検査



臨床検査は健康な未来への道しるべ
バイオシステムで医療に貢献します

株式会社ビー・エム・エル
<http://www.bml.co.jp/>

本社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3 TEL.03-3350-0111 (代表) FAX.03-3350-1180
BML総合研究所 〒350-1101 埼玉県川越市市場1361-1 TEL.049-232-3131 (代表) FAX.049-232-3132